

小塚 崇彦さん

スポーツを楽しめる環境に感謝し
恩返しをしていきたい

フィギュアスケート日本代表としてバンクーバーオリンピックに出場した小塚崇彦さん。競技を引退した今も、フィギュアスケーターとして、指導者や解説者として、

幅広くスポーツ振興のための活動で活躍されています。

「スポーツができるのは環境が整っているからこそ」と言う小塚さんに
フィギュアスケートを中心としたスポーツと環境について聞きました。

引退から2年たった今、現役時代を振り返ってみると、深く印象に残っていることが2つあります。1つはオリンピックです。オリンピックは他の大会と雰囲気が全く違いました。様々な競技のアスリートが集まる選手村、鳴り物を使った賑やかな応援など、オリンピックは本当に特別な大会です。

選手権です。この年は東京で開催される予定でしたが、直前に東日本大震災が発生。急遽モスクワで開催されることになりました。開会式では白いリングに大きな日の丸が映し出され、スケーターが黙とうを捧げるなど、日本を応援する数々のセレモニーがありました。この大会の開会式は今でも忘れることができません。

**リンクに投げ込まれる花は
寄付して有効活用**

現役時代は特に環境問題への意識が高かったわけではありませんが、「もつたいない」という考え方は自然に身についていました。

ファイギュアの大会で、演技終了後に観客がリンクに花やぬいぐるみなどを投げ入れますが、その後

Takahiko Kozuka

1989年愛知県名古屋市生まれ。5歳からフィギュアスケートを始め、世界ジュニア選手権優勝（2005/06）、グランプリファイナル2位（2008/09）、バンクーバーオリンピック8位入賞（10）など世界の舞台で活躍。16年3月現役引退を発表。現在、フィギュアスケーター、トヨタ自動車株式会社非常勤嘱託、JOCオリンピック・ムーブメントアンバサダーなど。



Nozuka

どうなるか知っていますか？ 集められた花やぬいぐるみは、全ていつたん選手の元に届きますが、量が多くて持ち帰ることはできません。そこで僕は手紙だけを抜いて寄付していました。花は高齢者施設に寄付して飾つてもらったり、生け花のレッスンに使ってもらったり。ぬいぐるみは保育園や児童養護施設などに寄付したり。僕だけでなく、日本のフィギュア選手のほとんどが同じような活動をしていると思います。

環境に負荷をかけるからこそ
副産物を大切にしたい

「バサダー」を拝命しました。活動はまだこれからですが、「よい地球環境がなくては、スポーツは楽しめない」という考え方のもと、スポーツを通じて環境保全のメッセージを伝える役目です。

そもそもほとんどのスポーツは環境に負荷をかけています。スケートリンクをつくるには水と電気が大量に必要ですし、スキー競技は森林伐採などが問題になることがあります。

ではなぜスポーツをするのでしょうか。僕はスポーツって、人生をぎゅっと圧縮したようなものだと思います。たくさん失敗して、それでもまたチャレンジしてを繰り返すことで、失敗から這い上が

る力を身につけられます。また僕はスペシャルオリンピックスのサポートとして知的障碍の方々と一緒にスポーツをすることがありますが、言葉が不自由でも競技中は不思議と意思疎通ができます。スポーツが共通言語になつているんですね。スポーツは人を成長させ、感動を与えてくれます。スポーツを楽しめる環境に感謝し、その素晴らしさを広く伝えることで恩返しをしていきたいです。

2020年には東京オリンピックがあります。大会を成功させることはもちろん大切ですが、大会が終わったら全て終わりではありません。オリンピックをやったことで得られた感動や記憶、いわゆる

が、活動の軸はスケート教室です。それも競技に勝つための教室ではなく、あくまで初心者向け。できるだけ噛み砕いて説明し、話しながら実際に滑って見せるので、職業を聞かれたときは「デモンスト레이ター」と答えていきます。

今フィギュアはとても人気で、多くの人が見てくれます。ただ残念なことに、実際に滑つてみようという人は少なく、このままではいずれ人気は低迷してしまうでしょう。だから僕は、10年、20年、30年後のフィギュア界を見据えて、今は初めてリンクに立つ人たちにその楽しさや素晴らしさを伝えることに力を注いでいます。

「バサダー」を拝命しました。活動はまだこれからですが、「よい地球環境がなくては、スポーツは楽しめない」という考え方のもと、スポーツを通じて環境保全のメッセージを伝える役目です。

そもそもほとんどのスポーツは環境に負荷をかけています。スケートリンクをつくるには水と電気が大量に必要ですし、スキー競技は森林伐採などが問題になることがあります。

ではなぜスポーツをするのでしょうか。僕はスポーツって、人生をぎゅっと圧縮したようなものだと思います。たくさん失敗して、それでもまたチャレンジして繰り返すことで、失敗から這い上が

る力を身につけられます。また僕はスペシャルオリンピックスのサポーターとして知的障碍者の方々と一緒にスポーツをすることがありますが、言葉が不自由でも競技中は不思議と意思疎通ができるます。スポーツが共通言語になつているんですね。スポーツは人を成長させ、感動を与えてくれます。スポーツを楽しめる環境に感謝し、その素晴らしさを広く伝えることで恩返しをしていきたいです。

2020年には東京オリンピックがあります。大会を成功させることはもちろん大切ですが、大会が終わつたら全て終わりではありません。オリンピックをやつたことで得られた感動や記憶、いわゆる「レガシー」を、オリンピック後にどう継続させ生かしていくか。それが重要だと考えています。

が、活動の軸はスケート教室です。それも競技に勝つための教室ではなく、あくまで初心者向け。できるだけ噛み砕いて説明し、話しながら実際に滑って見せるので、職業を聞かれたときは「デモンスト레이ター」と答えていきます。今フィギュアはとても人気で、多くの人が見てくれます。ただ残念なことに、実際に滑ってみようという人は少なく、このままではいずれ人気は低迷してしまってしょう。だから僕は、10年、20年、30年後のフィギュア界を見据えて、今は初めてリンクに立つ人たちにその楽しさや素晴らしさを伝えることに力を注いでいます。

環境問題も同じです。一気に問題が解決できるような方法はありません。全ては小さなことの積み重ねです。水道の蛇口をこまめに

スポーツ振興も環境保全も
0年先を見据え之活動を

スポーツ振興も環境保全
0円先を見据えた活動を

僕は今、フィギュアスケーター、解説者、トヨタ自動車非常勤嘱託社員など様々な肩書があります



愛媛県で行われたスケート教室の様子
(写真提供:ティエスティジャパン)